成　果　報　告　書

１．事業の題名

「　障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究事業　」

２．委託事業の実施期間

令和元年５月２４日（金）から令和２年３月１０日（火）まで

３．選択した研究テーマ、追加的に実施する事業

【選択した研究テーマ】

（ア）学校から社会への移行期	○
（イ）生涯の各ライフステージ	

【追加的に実施する事業】

（ウ）ブロック別コンファレンス	○

４．委託先組織の構成

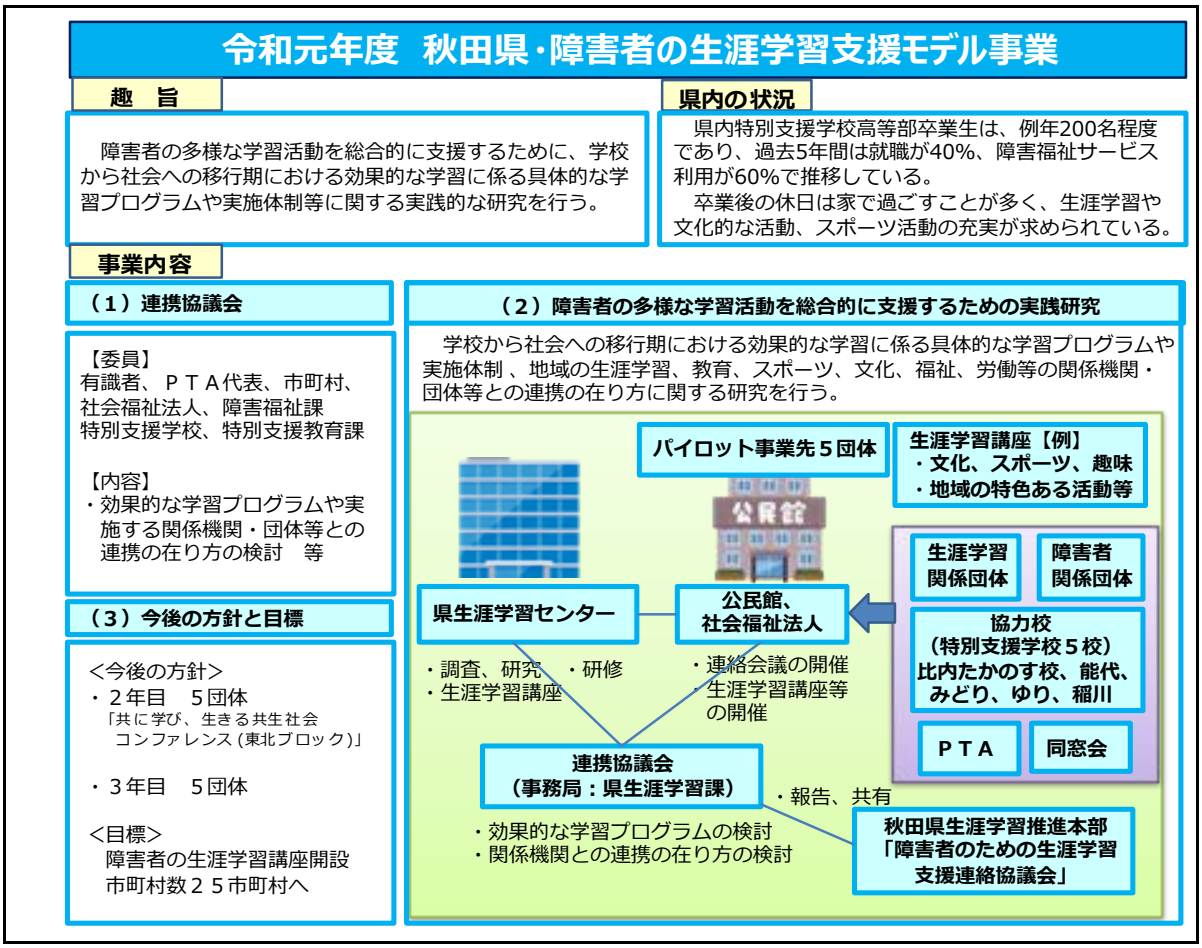
①組織の主要構成員（役員等）

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
中山　恭幸	秋田県教育庁生涯学習課　課長	
山田　仁美	秋田県教育庁生涯学習課　副主幹(兼）班長	
中山　恵理子	秋田県教育庁生涯学習課　副主幹	
藤原　秀一	秋田県教育庁生涯学習課　主任社会教育主事	
青池　研悟	秋田県教育庁生涯学習課　指導主事	
佐々木達也	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	
櫻庭　直	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	
加藤　琢大	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	
川田　貴之	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	
小川　成樹	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	

②事業推進担当者

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
藤原　秀一	秋田県教育庁生涯学習課　主任社会教育主事	副担当
佐々木達也	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	
川田　貴之	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	
小川　成樹	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	主担当

5．事業の実施に係る全体像



6．事業の実施結果

（1）効果的な学習プログラムの開発

①開発の実施経過

	秋田県教育委員会
４月	
５月	
６月	県連携協議会①
７月	
８月	秋田県生涯学習センター調査研究委員会「障害者の生涯学習」①
９月	
１０月	
１１月	県連携協議会② 秋田県生涯学習センター調査研究委員会「障害者の生涯学習」②
１２月	共に学び、生きる共生社会コンファレンス（東北ブロック）
１月	障害者のための生涯学習支援連絡協議会
２月	県連携協議会③
３月	秋田県生涯学習センター調査研究委員会「障害者の生涯学習」③

	北秋田市障害者生活支援センターささえ
４月	
５月	フローラルフェスタ SasaeCafé 出店
６月	連絡会① 北鷹祭 SasaeCafé 出店　　まちあるきイベント参加　　光の会パークゴルフ
７月	ミュージック・ケアおためしキャラバン隊 SasaeCafé 出店・参加 フレンドリーCafé 出店
８月	コーヒー焙煎講座　　チャレンジ！！きたっこ宿泊ボランティア参加
９月	連絡会②　　縄文まつり SasaeCafé 出店 １００キロチャレンジマラソンボランティア SasaeCafé 出店
１０月	陶芸教室　　能代公民館まつり SasaeCafé 出店 視察研修(一泊)　　重心カフェ(集いの場)
１１月	本日のからくり Café(ボランティア研修) 光の会葛黒地区の皆さんと交流
１２月	コンファレンス参加　　チャレンジ！！きたっこボランティア参加と Café 出店 生涯学習フェスタ SasaeCafé 出店　　光の会(当事者の会)忘年会
１月	坊沢地区の皆さんとそば打ち体験　　光の会総会
２月	白い風と遊ぼうボランティア参加
３月	連絡会③

	能代市中央公民館
４月	
５月	
６月	
７月	第１回連絡会議
８月	陶芸講座①、アクセサリー講座
９月	陶芸講座②
１０月	公民館祭作品展示（※10/5 公民館祭ささえカフェ出店）
１１月	第２回連絡会議、スポーツ＆レク
１２月	ドミノ講座
１月	公開講演会、ドミノ講座（４回）
２月	第３回連絡会議
３月	

	潟上天王つくし苑	
	(運動＆ダンス)	(クッキング)
４月		
５月	①　Open カフェ(開級式)コミュニケーションゲーム等	
６月	②　創作ダンス＆ゲーム	*笹巻餅と浅漬け
７月	③　土崎港祭り	
８月	④　創作ダンス＆ボッチャ・卓球バレー	＊夏カレー(ハート型のゆで卵付き)

９月	⑤　日帰り旅行(男鹿水族館　他)	
１０月	⑥　潟上市文化祭に参加(ダンス)を皆で踊ろう！！	
１１月	⑦　創作ダンス＆ボッチャ・卓球バレー	*わかめご飯と豚汁　　卵焼き・焼き魚
１２月	⑧　X’mascake で X’mas 会(全員で)	
１月	⑨　餅付き会＆かるた大会(全員)	
２月	⑩　集大成「ダンス披露会」「だまこ鍋」閉級式	
３月		

	ＮＰＯ法人逢い
４月	
５月	
６月	連絡協議会①、暮らしの講座、食育講座
７月	先進地視察（東京都町田市）、ダンス等活動
８月	暮らしの講座、食育講座
９月	ダンス等活動
１０月	連絡協議会②、食育講座、ダンス等活動
１１月	
１２月	創作活動（２回）
１月	食育講座、アート交流会
２月	連絡協議会③
３月	

	トータルサポートスクールリード学舎
４月	
５月	
６月	
７月	絵画・書道レッスン、iPad レッスン、教科支援、漢検数検サポート
８月	絵画・書道レッスン、iPad レッスン、教科支援、漢検数検サポート
９月	絵画・書道レッスン、iPad レッスン、教科支援、消費生活講座
１０月	絵画・書道レッスン、iPad レッスン、教科支援、商品開発、英検サポート
１１月	絵画レッスン、iPad レッスン、教科支援、商品開発、英検サポート
１２月	絵画・書道レッスン、iPad レッスン、教科支援、商品開発、英検サポート ＳＤＧs 講座、クリスマス特別講座
１月	絵画・書道レッスン、iPad レッスン、教科支援、商品開発、英検サポート ＳＤＧs 講座、進路決定のための自己分析レッスン、面接練習
２月	絵画・書道レッスン、iPad レッスン、教科支援、商品開発、英検サポート ＳＤＧs 講座、進路実現のための自己分析レッスン、面接練習
３月	

②具体的な内容

【秋田県教育委員会】

○２年目となる令和元年度、本県は県立特別支援学校５校の協力の下、昨年度から事業を再

委託している北秋田市障害者生活支援センターささえ、能代市中央公民館、潟上天王つくし苑の３団体に加えて、今年度から由利本荘市のＮＰＯ法人逢い、湯沢市のトータルサポートスクールリード学舎の２団体に再委託し、合計５団体が「障害者の生涯学習モデル支援事業」に取り組んだ。

○県生涯学習課(事務局）は本事業に係る県連携協議会を年３回開催した。各地域の実情を踏まえ、効果的な学習プログラムや連携体制について協議を行うことができた。また、県障害福祉課や県特別支援教育課とは、連携協議会以外でも情報交換をするなど、昨年度より横断的な連携が深まった。

○昨年度からの再委託先３団体については２年目ということもあり、初年度の反省を生かして様々な講座運営を計画し、実施している。例を挙げると、地元の高等学校文化祭に喫茶を出店して高校生と障害者が交流を深めたり、講座を実施するに当たり高校生ボランティアを活用したりするなど、地域の高校生との共同活動が特徴的であった。この背景には、高等学校のボランティア活動部などが、活動内容を模索していたり交流相手を探していたりするケースがあり、このことが交流促進に弾みをつけた。しかし、地域の高校生との交流を進めていく上では、年度当初に高校(管理職や部活動顧問等）へ訪問し、本事業について改めて説明し、部活動の年間計画等に本事業を組み込んでもらうなどの働き掛けが必要であった。

○障害者主体の活動を目指し、調理と運動のコース選択制で講座を実施したり、創作活動や教科の学習、タブレット操作など自由にやりたいことを選んでよい環境を整備したりするなど、自己決定する場面を取り入れている再委託先が見られるようになった。ただし、支援スタッフにとっては、講座の準備をするに当たって活動内容を単一化した方が負担感は少ないようだった。

【再委託先①　北秋田市障害者生活支援センターささえ】

昨年度に引き続き、4 つの大きなカテゴリーに分けて取り組んだ。

○計画①～カフェ展開のための空き店舗開拓など～

店舗は継続して探しているが、重度の障害のある方も働くという意識をもって過ごせる場、そして地域の方が誰でも集えるカフェ店舗を目指しているため、条件が合わず現在も店舗確保に至っていない。

また、今後の人材育成、障害理解などの観点から、地元高校生を中心とした地域住民のみなさんとの関わりを継続して行った。何度も一緒に活動することでお互いにどのように関わればよいのかの理解が進み、良好な関係性を築いていくことができた。地元の高校生や民生委員児童委員とのつながりは今後も大切にしていきたいと考えている。

○計画②～視察研修～

Cafe 活動や創作活動を積極的に取り組んでいる事業所を見学した。保護者の参加もあり、子供が将来過ごす場や親亡き後の生活の場を一緒に考える機会となった。また、店舗を活用するに当たって障害者が働くということに甘んじることなく、本格的なサービス業を目指すことの大切さを改めて学んだ。この学びを日常の Cafe 活動や将来像にどのようにつなげていくかが課題である。参加者は障害者、福祉施設職員、行政、保護者など 19 名であった。

○計画③～学びの会(交流会、講座等)～

・ボランティア養成講座～本日のからくり Cafe～

秋田県生涯学習センターの協力の下、講座に熟議を取り入れた。町歩きをしながら自分たちの暮らす町の良いところ、こうしたいと感じるところなどの課題をそれぞれの視点で感じとることができた。その後の熟議を通して、自分たちの目指すことは何なのかを考えるよい機会となった。会場内には各福祉事業所の生産する販売ブースを設け、参加者に活動を広く知ってもらう機会となった。参加者は 107 名で、内訳は障害者、民生委員児童委員、学校関係者、保護者などであった。平日開催のため、小中高校生の参加が難しく、来年への課題となった。

・各講座

昨年度に引き続き、イベントなどでのカフェ活動を行う。また、昨年度つながった地域の方々との交流や、高校生との交流活動に積極的に取り組んだ。

１３年前から活動している当事者の会「光の会」活動(学校卒業後の余暇支援を定期的に実施)、保護者と総合支援協議会が中心となって活動しているチャレンジ！！きたっこ(特別支援学校や特別支援学級に通う児童生徒を対象)でも、宿泊体験や防災クッキングなど課題解決に向けたプログラムを展開している。

生涯学習事業として取り上げている講座以外にも、以前から余暇活動する場の提供を継続しており、定着してきている。今後は、自分たちが講座を企画するのではなく、公民館等で企画されている講座に、当たり前に参加できる環境づくりに取り組んでいく。

〇計画④～商品開発など～

今年度は高校生の意見を取り入れ、タピオカドリンクに挑戦した。北鷹祭では長蛇の列ができ、２００杯を完売することができた。また、レモネードも試作開発したが、保健所の指導があり販売するまでに至らなかった。来年度に向けて、比内支援学校たかのす校と共同商品開発等を一緒に考えて行く方向で話を進めている。課題はコーヒー販売等に必要な営業権取得に向けた手続きの検討とコーヒー以外の商品開発である。

〇その他

来年度に向けて、今年度まで行ってきた活動を継続的、発展的な活動にしていくために取り組んでいかなければならない課題として、地域との連携強化、活動を支えてくれるボランティア育成、重度障害者が過ごす場の提供とカフェ活動の連動などを挙げられる。

【再委託先②　能代市中央公民館】

〇8/17　13:30～15:00　陶芸作品づくり①

内容　陶芸作品づくり（土を捏ねて形づくり）

講師　戸田誠子

ボランティア　なし

参加者　知的障害児及び保護者４名　一般３名　協力団体関係者１名　公民館職員１名

結果　手先を動かして創造力を膨らませながら作成した。親子の触れ合い体験ができた。

〇8/24　13:30～15:00　アクセサリーづくり

内容　小さなビーズを型に貼り付けるアクセサリーづくり

講師　今野祥子

ボランティア　なし

参加者　知的障害者１名　一般２名　協力団体関係者１名　公民館職員１名

結果　作業内容が分かりやすく、参加者同士のコミュニケーションが取りやすかった。

〇9/14　13:00～15:00　陶芸作品づくり②
　内容　陶芸作品づくり（絵付け、色付け作業）
　講師　戸田誠子
　ボランティア　なし
　参加者　知的障害者及び保護者２名　一般３名　協力団体関係者３名　公民館職員１名
　結果　やすりをかけて模様・色を付ける。焼き上がりへの期待が高まった。
〇10/4～10/7　10:00～15:00　公民館祭作品展示
　内容　先回講座で作成した陶芸作品を公民館祭で展示、
　　月刊公民館 10 月号の当該事業掲載箇所を展示
　ボランティア　なし
　入場者　延べ 1,930 人
　結果　当該事業が多くの市民の目に触れる機会になった。
〇10/5　10:00～14:00　公民館祭で「ささえカフェ」提供
　内容　北秋田市障害者生活支援センター「ささえ」と連携しコーヒーを提供
　ボランティア　なし
　参加者　知的障害者２名、協力団体関係者１名
　結果　多くの市民と触れ合い、「ささえ」及び当該事業の活動が広く周知された。
〇10/26　13:30～15:00　ウォータードームづくり
　内容　自分のオリジナルウォータードームづくり
　講師　成田麻里子
　ボランティア　なし
　参加者　知的障害者及び保護者７名、一般９人
　結果　参加者同士の交流が深まり、作品を見せ合うなどして楽しむことができた。
〇11/30　13:30～15:00　障害者スポーツ＆レクリエーション
　内容　フライングディスク、ボッチャ、視線入力体験
　講師　秋田県障害者スポーツ協会３名
　ボランティア　なし
　参加者　知的障害・肢体不自由者及び保護者 14 名、支援学校職員、公民館職員１名
　結果　車椅子のままで参加できるスポーツで、保護者ともにスポーツを楽しんだ。視線入力体験は、装置の不具合により実施できなかったが、支援学校の職員から視線入力で遊ぶことのできるゲームなどの紹介があり、交流を深めた。
〇12/28　13:30～15:00　コロコロドミノ装置を作ろう！①
　内容　のしろまち灯りイベント(1/26)に向けて、ドミノ装置を作る。
　講師　のしろまち灯り実行委員会２名
　ボランティア　なし
　参加者　知的障害児及び保護者２名
　結果　作品をイメージするのに少し時間がかかったが、ピンボールのような装置が一つ完成。
〇1/11　13:30～15:00　コロコロドミノ装置を作ろう！②
　内容　先回の講座で作成したものをグレードアップさせる。
　参加者　知的障害者１名、一般５人、協力団体関係者１名
　ボランティア　なし

結果　先回の作品を基に協力しながらグレードアップさせた。
〇1/18　13:30～15:00　コロコロドミノ装置を作ろう！③
内容　先回の講座で作成したものをグレードアップさせる。
参加者　ボランティア４人、知的障害者１名、協力団体関係者１名
結果　中学生のボランティアの参加があり、作品をきれいに装飾した。
〇1/25　13:30～15:00　コロコロドミノ装置を作ろう！④
内容　先回の講座で作成したものをグレードアップさせる。
ボランティア　なし
参加者　知的障害者６人、協力団体関係者２名
結果　支援学校同窓会の呼び掛けにより、参加者が少し増え、作品を完成させることができた。
〇1/26　10:00～19:00　コロコロドミノ装置を作ろう！⑤
内容　のしろまち灯りイベントで作品を公開。全 11 グループの作品が展示された。
午前中に作品の微調整を行い、午後は玉が転がる様子を全グループ分見られるよう、３回のスタート時間を設定してリレー形式で行った。
ボランティア　なし
参加者　知的障害者４名、協力団体関係者３名
結果　自分の作った作品が市民の目に触れる機会となった。
〇1/13　13:30～15:00　公開講演会
内容　命の授業～ドリー夢メーカーと今を生きる～
講師　腰塚勇人
ボランティア　なし
参加者　１４０名
結果　自身の経験から得た、命の大切さやその気づきについて共に学ぶ機会になった。障害者支援や共生社会の在るべき姿や考え方を学ぶことができた。

【再委託先③　潟上天王つくし苑】
今年度で２年目となり、昨年の活動の反省等を踏まえ、活動後はアンケートをとることで成果と課題を明確にした。
今年度は「運動＆ダンスパフォーマンス」と「クッキング」の選択制とし、１年間同じ活動を充実していくことにした。また、同世代の高校生ボランティアも「障害者理解とコミュニケーションを深める」ことを目的とし、高校別に活動担当者を固定して実施した。
〇初回は、open カフェとして「顔合わせ」を行った。１年間の流れや活動の意気込み、グループ討議をしながらカフェを楽しんだ。高校生ボランティアには「ボランティアの心得」を配付し、３０分程度の講義を行った。最初から障害者理解をしようと一人で悩まずに、「活動が楽しかったとお互いが思うことで、よい関わりが維持できる」という考えや思いを積み重ねていくことが大切だと伝えた。潟上天王つくし苑の職員は、高校生ボランティアと障害者の円滑なコミュニケーションがとれるように配慮しながら活動を見守った。参加した高校生は、次回の活動への期待感をもつことができたようだった。
〇秋田県秋田市土崎地区の港祭り「港曳山祭り」から招待を受けて参加した。高校生ボランティアは定期考査のため３名の参加だったが、代わりに支援者の知人である外国人７名(中国・アフリカ等)が参加し、国際交流にもつながった。土崎地域の住民と手綱を引き、

掛け声を合わせ一つの山車を曳いた。参加者全員の気持ちが１つになった瞬間だった。参加者(障害者)も本当に満足した表情だった。地域の方々からは感謝の言葉をいただき、また来年も来てほしいと声をかけられた。参加者も喜んでいた。

〇男鹿市まで日帰り旅行を行った。保護者は自由参加とし、高校生ボランティアは参加費がかかるため、不参加となった。秋田県在住ではあるが、「なまはげ」の由来や基本の動作などは知らずにいた参加者は、驚きながらなまはげの様子に見入っていた。また、男鹿水族館も行き慣れた場所だと思われたが、新しい発見が多く見られ、海の生物の特性等に関心をもつ場面が多く、参加者が帰路につきたがらない様子も見られた。送迎の中、思い思いに感想を語り合う姿が見られ、次回の旅行への期待等が感じられた。

〇潟上市文化祭に初参加した。公民館で行われている各種の講座で、日頃から文化・芸術を学んでいる市民の中に入り、普段の活動を披露することができた。前日に最終調整し、細部の動きを皆で確認し、当日に臨んだ。当日は、緊張感の中、あっという間に２曲が終了した。終了して、すぐに大きな拍手が会場から送られた。「活気があってすばらしかった」と退場時の花道で観客から声を掛けていただき、参加者はとても満足な様子だった。

〇今年で２回目となる「全員 X’mascake づくり」を実施した。今年は「オリンピック」を記念して５つのホールケーキに５色のフルーツを飾り、５つの輪を合わせたケーキが完成した。この日はボランティアや支援員はあまり手助けする必要がないほど、参加者の「やってみたい」気持ちが伝わり、短時間でダイナミックなケーキを完成させることができた。１人１人がキャンドルに火を灯し、讃美歌を歌い、X’mas の雰囲気を楽しんだ。重度身体障害の３名も活動に参加した。活動の中で笑顔が見られ、保護者も喜んでいた。高校生ボランティアも２～３回目の参加になる人が多くなり、会話が弾んでいた。

〇餅つき会を実施した。参加者は、杵と臼を使い、合いの手に合わせてとリズムよく杵を突くことの大変さを感じているようだった。３人の高校生ボランティアが参加し、「友達が参加して楽しかったと教えてくれたので、私も参加してみようと思いました。」と参加の動機を教えてくれた。

〇今年度最後の集大成の活動として、「ダンス披露＆振る舞いだまこ鍋」を行った。知的障害・麻痺がある重度障害の参加者が、綺麗な丸のだまこ餅を作ったのに対して、高校生ボランティアのだまこ餅は少々歪んだ形になってしまった。日頃、障害福祉施設の作業で、クッキーづくりをしている成果と感じた。参加した障害者はとても自信に満ち、高校生ボランティアは「すごい」と褒め称えるなど、温かい雰囲気で講座が終了した。

〇まとめ

今年度は活動をコース選択制にして、年間計画を立てた。障害があっても継続して行うことで、できることが増え、自立に向けた人生を歩めるのではないかと考えた。また、継続して参加することで同世代間の交流にも深みが増し、関わり方が充実していくのではないかと考えた。

ボランティアの高校生は、学業や学校行事が優先になるので、参加する率は低いときもあるが、それでも複数回参加してくれる高校生もいる。また、本事業が地域の３つの高校の生徒たちの交流にもつながり、障害理解についての学びの場にもなった。高校生の中には、「声掛けに迷う」「話題が見つからない」と言う声もあり、今後も継続して障害理解を進めていきたい。

来年度は、「コミュニケーション能力の向上」「活動を通じた自分の夢の実現」等について、講座をとおして考えてみたい。

【再委託先④　ＮＰＯ法人逢い】

由利本荘市ＮＰＯ法人逢いでは、これまで、市町村の「地域生活支援事業」である「日中一時支援」を通し、家族の負担の軽減や余暇の充実を図るべく支援を行ってきた経緯を踏まえ、事業の展開を図った。市内在住の障がいをもつ方々に対し、「学び」を楽しみ、集う場として、「暮らしの講座」「食育講座」「ダンス等運動活動」「創作活動」「高校生とのアート交流」など１２回の講座等を開催。活動によっては市内７か所の通所事業所、特別支援学校児童生徒、一般就労している障がい者の参加もあり、来年度以降の広がりに繋げたい。。

①「暮らしの講座」（6/15,8/24 ）

初回ということもあり、まずはこの集まりの場に、誰でも気軽に参加できるよう皆さんに活動（会）の名前を考えてもらった。そして、困っていることや悩んでいることなどがあるか、悩みは誰に相談するか、また自分のストレスの解消法はあるかなど、グループで話し合ったり、全員の前で自分の気持ちや意見を伝えたりするなどの場を設けた。

また、スマートフォン等の長時間使用による生活習慣の乱れや不適切な利用による問題等もある状況で、本荘警察署生活安全課に依頼し「スマホによるネット上でのメール、ＳＮＳ等の被害者、加害者にならないように」というテーマでスマホ講座を開いた。この講座には、家族も含め１４名の参加があった。メンバーの１人からは「ネット上でつながり、『自分も同じ〇〇養護学校だった！』と言われ、実際に会ってしまった」という体験談があり、会わない方がよかったと反省したり、関係者に相談したりする場面があった。

家族からはビジュアル的効果が少なかった為か、「少し内容が難しかったのでは」との感想があった。来年度以降、継続的な講座として内容、障がいの特性等も考慮しながら実施していきたい。

②「食育講座」（6/23,8/31,10/12,1/25）

４回実施し、毎回１３～１４名の参加であった。公民館主催の「男の料理教室」の講師で、栄養士の土館裕子氏の指導の下、季節の野菜を使った料理や緑黄赤等色の濃い野菜を摂ることの必要性、柔らかい物だけではなく硬いものを食べることで虫歯予防にもなることなどについて学ぶことができた。実際の調理活動では、各調理台に支援スタッフを１名配置し、全員が調理に参加できるように支援した。また、ボランティアとして参加してくれた方や家族の方のサポートにより、調理が段取りよく、スムーズに進められた。参加者からは、「家で料理をするようになった」「レパートリーが増えた」「料理に合わせた野菜の切り方を知った」などの感想とともに来年度への希望も聞かれ、食への関心を高めることができた。

③「ダンス等運動活動」（7/27,9/28,10/19）

ダンスはダンス教室を主催するプロの方や、ヤートセは地元で長年踊ってきた方に依頼した。稲川支援学校からの参加も含め 21 名の参加があった。普段、福祉サービス事業所や学校在学中は体を動かす機会があっても、プロやベテランのパワフルでキレのある動きは新鮮だったようで、声を上げ、汗を流し、心身ともにパワー全開で楽しんだ。

ボッチャについては、県のスポーツ推進員の指導で行った。高齢の方や下肢障がいの方も含め２２名の参加があった。ボッチャ競技は初めての人が多かったが、ルールを覚えると、歓声が飛び交うほどに盛り上がり、時間を延長して楽しんだ。やはり、年齢的に「体を動かしたい」「色々なスポーツをしたい」という希望も多かったため、競技スポーツの機会は今後増やしたい。

④創作活動(12/8,12/14)

２週続けて実施した。興味関心の幅を広げ、「ものづくり」の楽しさを知ることで、生活の中で充実感や達成感が味わえるよう、今回は、さをり織り体験、手芸、魔法の鉢づくりに１３～１４名が取り組んだ。それぞれが選択した作業に取り組む表情は真剣で、生き生きと取り組む様子が見られ、講師、支援スタッフも一緒に完成までの作業を楽しむことができた。

⑤アート交流会（1/18,1/19）

土日続けて２日間行い、２５名が参加した。アートを通じて、高校生や地域の方との交流を図りながら、ペインティング作業を楽しんだ。沢山の色から好きな色を選んで思い思いに塗って完成させた。１つの大きな作品を、共同で完成させる達成感を共有できたことは、参加者の自信と意欲につながったと考える。

〇全体をとおして

日中活動（障害福祉サービス）の延長線上の活動ではなく、あくまでも自分自身の余暇を充実させる学習の場として、今年度は「行きたい」「やりたい」という自立した意思をもって参加できる「集う場」の提供ができた。

前期後期（６月～１月迄）併せて１２回の活動を実施したが、前期は家族に送迎等負担をかけていた人たちが、後期には「電車で来た」「駅から歩いて来た。健康のために自分で歩いて帰るんだ」という言葉が聞かれるようになった。また、一人一人の興味関心を探りながら、支援スタッフの細かな配慮や支援によって、「楽しかった」「また来たい」「この次いつ？」という言葉が開催毎に多くなり、自主的な参加に繋がったことは大きな成果だった。今後の課題の１つとして、障がい特性を理解した支援者の確保が重要と考える。

【再委託先⑤　トータルサポートスクールリード学舎】

＜具体的内容～生涯学習につなげるための TABIJI 教育プログラム～＞

（１）教員免許保有者による制作活動講座

①文房具の入れ物づくり　②人物の写真を見ながら、キャラクターのイラスト制作
③iPad を使ったバックのデザイン　④椅子づくりにチャレンジ
⑤育てた野菜で絵を描くレッスン　⑥iPad を使った塗り絵
⑦プレゼン資料のための写真撮影　⑧ガラス細工づくりレッスン
⑨名刺づくりレッスン
⑩３Ｄレーザープリンタを使ったクリスマスツリー＆アイシングクッキーづくり

（２）教員免許保有者による学習講座

①定期テスト対策　②高校受験対策　③検定（漢字・算数数学・英語）対策
④面接試験対策　⑤プログラミング講座　⑥販売士検定対策

（３）キャリアコンサルタントによるステップアップ講座

＜技能習得のためのステップアップ講座＞

①iPad で「美文字」に挑戦→水で描く書道→墨汁を使った書道
②iPad で「ローマ字練習」→パソコンで「文章づくり」→パソコンでポスターづくり→プレゼン（成果発表）

＜生活力向上と職業選択のためのステップアップ講座＞

③野菜づくり→収穫→保存方法を考える→商品開発→販売

④献立づくり→予算立て→買い物→食事作り→食事のマナー講座→食事の提供→後片付け→反省会

＜障害者当事者の意見の反映や自主的な活動の促進＞

支援学校や福祉施設とのコラボ講座以外の活動日には、傾聴第一で１００％障害者当事者の意見や保護者の意見を反映し、自主的な活動の促進を実施した。

＜外部講師招聘＞有り

・９月２１日（土）消費生活センター特別講座　「消費生活のトラブルと対処法」講座

・１月　佐々木千恵子氏　書写講座

・２月　佐々木千恵子氏　茶道講座

＜ボランティアスタッフ＞有り（登録制ではない）

・教員志望で地元に里帰りしてきた大学生

・支援学校教員・看護師・研究者志望の地元中高生

＜参加対象者のターゲット＞

①障害種・属性　軽度～中度　知的・精神・身体

②活動規模　　湯沢雄勝郡などが中心

＜結果＞

生涯学習につなげるための TABIJI 教育プログラムが効果的であった。

１．オーダーメイド型ステップアップ講座によりじっくりと支援

個性を認めていく教育手法により、参加者に自己肯定感が養われ講座中に笑顔が絶えることがなかった。

２．強み発見支援

参加者の特性を「強み」に引き上げた。参加者からは「次これをやりたい」「やってみたいことがあるから手伝ってほしい」などの発言が多くなり、実現に向けて努力しようとするなど、積極性が養われた。参加者の変動ぶりに保護者から感謝の言葉をいただいた。

３．アサーショントレーニング導入

全ての活動を通じて、自分自身のコントロールを行えるようにサポートすることで、空気をよんだり、外部に興味関心をもって他者の気持ちを察しながら行動しようとする姿勢が徐々に見られるようになった。

＜今後の課題・検討すべき点＞

「雪のせいで、冬場に通えない」「平日もやってくれないか」「もっと回数を増やしてくれないか」というニーズがあった。検討していきたい。

（２）連携協議会の開催及び効果的な実施体制や関係機関・団体等との連携モデルの構築

①県連携協議会の構成員

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
藤井　慶博	秋田大学教育文化学部教授	委員長
牧野　真悟	ウェルビューいずみ就業・生活支援センターセンター長	副委員長
高橋　精一	秋田県手をつなぐ育成会会長	
斎藤　雅和	社会福祉法人秋田育明会竹生寮相談支援専門員	
吉田　かおり	秋田県特別支援学校ＰＴＡ連合会会長	
疋田　牧男	社会福祉法人県北報公会理事長	再委託先①
小林　純	能代市中央公民館館長	再委託先②

佐藤　千枝子	社会福祉法人南秋福祉会潟上天王つくし苑施設長	再委託先③
佐藤　裕子	ＮＰＯ法人逢い障がい者支援事業所副理事	再委託先④
阿部　浩美	トータルサポートスクールリード学舎代表	再委託先⑤
佐藤　栄作	北秋田市健康福祉部福祉課長	
田口　俊成	能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課長	
鈴木　健二	潟上市教育委員会文化スポーツ課長	
佐々木直樹	由利本荘市教育委員会生涯学習課長	
藤山　英信	湯沢市教育委員会生涯学習課長	
鎌田　裕之	秋田県立比内支援学校長	
佐藤　淳	秋田県立能代支援学校長	
佐々木孝紀	秋田県立支援学校天王みどり学園校長	
田口　睦子	秋田県立ゆり支援学校長	
佐藤　博司	秋田県立稲川支援学校長	
髙橋　直樹	秋田県健康福祉部障害福祉課長	
新井　敏彦	秋田県教育庁特別支援教育課長	

②県連携協議会事務局構成員（４．②の担当者の兼務可。また、事務作業スタッフを除く。）

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
小川　成樹	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	主担当
藤原　秀一	秋田県教育庁生涯学習課　主任社会教育主事	副担当
佐々木達也	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	
川田　貴之	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	

＜北秋田市障害者生活支援センターささえ連絡会議の構成員＞

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
櫻井　孝良	有識者　協議会会長	会長
佐藤　祥彦	有識者　協議会副会長	副会長
藤本　博明	比内支援学校たかのす校　進路指導主事	委員
伊藤　恵理子	比内支援学校たかのす校　高等部主事	〃
佐藤　栄作	北秋田市　健康福祉部　福祉課長	〃
高橋　由利子	北秋田市　健康福祉部　福祉課　主任	〃
石上　和彦	北秋田市　健康福祉部　医療健康課　課長兼室長	〃
松田　淳子	北秋田市　教育委員会　生涯学習課　主査	〃
成田　重昭	社会福祉法人　県北報公会　園長	〃
中村　智子	県北報公会　障がい児通園施設　もろびこども園管理者	〃
庄司　雄大	北秋田障害者就業・生活支援センター主任就労支援員	〃

＜北秋田市障害者生活支援センターささえ連絡会議の事務局構成員＞

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
岩本　幸哉	北秋田障害者就業・生活支援センター生活支援員	
成田　友加子	北秋田市生活支援センターささえ　相談支援専門員	
石川　紀子	北秋田市生活支援センターささえ　相談員	
櫻井　優	北秋田市生活支援センターささえ　相談員	

＜能代市中央公民館の連絡会議の構成員＞

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
桜田　星宏	秋田虹の会理事長	
若松　尚志	能代山本就業・生活支援センター長	
佐藤　淳	能代支援学校　校長	
袴田　隆士	能代ふくし会　事務局長	
小川　成樹	県生涯学習課　社会教育主事	
秋田谷　大作	県北教育事務所　社会教育主事	
宮腰　徹	県生涯学習センター　社会教育主事	
菊池　和臣	市福祉課　課長	
田口　俊成	市生涯学習・スポーツ振興課　課長	
小林　純	能代市中央公民館　館長	

＜能代市中央公民館連絡会議の事務局構成員＞

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
小林　純	能代市中央公民館　館長	
佐藤　邦彦	能代市中央公民館　係長	

＜潟上天王つくし苑の連絡会議の構成員＞

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
鈴木　健二	潟上市文化スポーツ課　課長	
筒井　弥生	潟上市社会福祉課　課長	
鈴木　司	潟上市社会福祉協議会　事務局長	
長門　麻友子	潟上市社会福祉協議会　事業課係長	
渋谷　豊	潟上市公民館　館長	
佐々木　孝紀	秋田県立支援学校天王みどり学園　校長	
由利　和也	秋田県立支援学校天王みどり学園　進路指導主事	
佐藤　千枝子	潟上天王つくし苑　施設長	
高橋　義武	潟上天王つくし苑　支援員	
門間　宏樹	潟上天王つくし苑　支援員	

＜潟上天王つくし苑連絡会議の事務局構成員＞

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
佐藤　千枝子	潟上天王つくし苑　施設長	

＜ＮＰＯ法人逢いの連絡会議の構成員＞

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
和田　光子	由利本荘市障がい者基幹相談支援センター 相談支援専門員	
佐々木　寛子	由利本荘市障害者就労・生活支援センター 主任就業支援員	
三浦　智己	秋田県立ゆり支援学校　教諭	
遠藤　千代子	由利本荘市健康福祉部福祉課　課長補佐	

佐々木　直樹	由利本荘市教育委員会生涯学習課　課長	
黒木　健	秋田県立西目高校　教諭	
長谷川　時夫	由利本荘市育成会　会長	
小野　秀一	特定非営利活動法人あゆみの会　施設長	
佐藤　裕子	特定非営利活動法人逢い　副理事	
菊地　陽子	特定非営利活動法人逢い　理事	

＜ＮＰＯ法人逢い連絡会議の事務局構成員＞

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
佐藤　裕子	特定非営利活動法人　逢い　副理事	
和田　光子	由利本荘市障がい者基幹相談支援センター 相談支援専門員	
菊地　陽子	特定非営利活動法人逢い　理事	
小野　秀一	特定非営利活動法人あゆみの会　施設長	

＜トータルサポートスクールリード学舎の連絡会議の構成員＞

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
佐藤　博司	秋田県立稲川支援学校　校長	
山脇　聡	秋田県立雄勝高等学校　校長	
赤平　一夫	社会福祉法人湯沢市社会福祉協議会　事務局次長	
長沼　敏幸	湯沢市基幹相談支援センター所長兼相談支援係長	
新山　栄泰	湯沢市福祉保健部福祉課　課長	
高橋　優功	湯沢市産業振興部商工課　課長	
藤山　英信	湯沢市教育委員会事務局教育部生涯学習課　課長	
高山　明	湯沢市教育委員会事務局教育部生涯学習課 社会教育文化班　班長	

＜トータルサポートスクールリード学舎連絡会議の事務局構成員＞

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
阿部　浩美	トータルサポートスクールリード学舎・代表	
梶原　久美子	トータルサポートスクールリード学舎・アートディレクター	

③連携協議会の開催及び効果的な実施体制・連携モデルの構築の実施経過

	秋田県教育委員会
４月	
５月	
６月	県連携協議会①
７月	
８月	秋田県生涯学習センター調査研究委員会「障害者の生涯学習」①
９月	
１０月	
１１月	県連携協議会② 秋田県生涯学習センター調査研究委員会「障害者の生涯学習」②

１２月	共に学び､生きる共生社会コンファレンス（東北ブロック）
１月	障害者のための生涯学習支援連絡協議会
２月	県連携協議会③
３月	秋田県生涯学習センター調査研究委員会「障害者の生涯学習」③

	北秋田市障害者生活支援センターささえ
４月	
５月	
６月	連絡会①
７月	
８月	
９月	連絡会②
１０月	視察研修への参加(宿泊のため懇親会の開催)
１１月	本日のからくりカフェへの参加と懇親会の開催
１２月	
１月	商品開発ときずなカフェとのつながりを考える会
２月	ささえ祝賀会へのご協力と懇親会の開催
３月	連絡会③

	能代市中央公民館
４月	
５月	
６月	
７月	7/3　第１回連絡会議開催
８月	
９月	
１０月	
１１月	11/5　第２回連絡会議開催
１２月	
１月	
２月	2/17　第３回連絡会議開催
３月	

	潟上天王つくし苑
４月	潟上市市役所(文化スポーツ課･社会福祉課)へ今年度の内容を説明に出向く。また、公民館へも今年度の使用許可願書を提出と説明に出向く。 ３校の高等学校へ今年度のボランティアを要請と今年度の内容説明に出向く。
５月	社協へ地域ボランティアの要請と今年度の活動内容を説明に出向く。
６月	
７月	

８月	
９月	潟上市連絡会①
１０月	
１１月	
１２月	
１月	
２月	
３月	潟上市連絡会②

	ＮＰＯ法人逢い
４月	
５月	
６月	連絡会議①
７月	
８月	
９月	
１０月	
１１月	連絡会議②
１２月	
１月	
２月	連絡会議③
３月	

	トータルサポートスクールリード学舎
４月	実施検討会議（湯沢市教育委員会）
５月	実施検討会議（稲川支援学校）
６月	第１回　県連携協議会・湯沢市連絡協議会①
７月	連携依頼（湯沢雄勝地域包括支援ネットワーク協議会）
８月	連携依頼（県内商工団体）
９月	
１０月	
１１月	第２回　県連携協議会・湯沢市連絡協議会② 連携依頼（湯沢市社会教育委員会議）
１２月	実施検討会議（市内福祉施設）
１月	連携依頼（市内障害者支援団体）
２月	第３回　県連携協議会・湯沢市連絡協議会③ 連携依頼（湯沢市子どもの未来応援会議）
３月	

④具体的な研究内容

【秋田県教育委員会】

・県連携協議会の委員には、今年度から新たに追加した２団体がある由利本荘市と湯沢市の生涯学習課長２名と特別支援学校長２名の計４名を追加し、計２２名で構成した。各地域の取組をお互いに参考にして活発な議論を行った。再委託先のよい取組については地域の実情に応じながら取り入れたり、お互いの事業を見学したりするなど、再委託先団体同士での交流も進んだ。

・県連携協議会では、再委託先が先進地視察で知り得た情報や、各委託先で行われた連絡会議(年３回実施）の内容等を共有し、秋田県の地域性や実情等を踏まえながら、効果的な学習プログラムや実施体制等について検討した。

・来年度は、委員に障害者当事者等を新たに委員に加えて、当事者の声を参考にしながら障害者の生涯学習の在り方について検討をしていきたい。

・秋田県生涯学習推進本部内にある「障害者のための生涯学習連絡協議会」では、本事業や文部科学大臣表彰など、関係各課に情報を提供し共有し、「障害者の生涯学習」の推進に向けて協議を行うことができた。

【再委託先①　北秋田市障害者生活支援センターささえ】

〇連絡会①

・実施日：6 月 12 日　　参加人数：１７名

・内　容：平成 30 年度の活動報告と令和元年度の活動計画について。
新たに委員となった方への委嘱状交付。
Cafe 活動における保健所への申請と販売活動について。
飲食物は生涯学習事業委託費の対象外となっていること、働くという意識をもちながら過ごせる場所を目指す将来像を見据え、自分たちが行った活動に賃金を支払うことで働く意欲向上につながること、評価されることで自信をもって生活できるという利点が考えられることなどが話し合われた。

〇連絡会②

・実施日：9 月 4 日　　参加人数：１２名

・内　容：現在までの活動報告と今後の活動予定の確認。
コンファレンス（東北ブロック）参加への協力依頼。
本日のからくりカフェへの協力依頼と内容について。
からくりカフェで導入したいと考えているワールドカフェ手法について学ぶ。
商品開発をお願いしたい店で会議を行った。協力してくださるカフェのオーナーも会議に参加してくださり、協議会委員のみなさんと一緒に商品開発の検討をした。
視察研修についての詳細。岩手県障害者支援施設ルンビニ苑他を中心とした視察研修について協議。

〇商品開発

・実施日：1 月 16 日　　参加人数：たかのす校職員４名　商品開発協力店１名
ささえ２名

・内　容：「たかのす校絆カフェ」から、卒業後に「ささえカフェ」でスムースに活動できるような道筋を作ること、商品共同開発を行うこと、イベントに一緒に取り組むことなどを検討した。

どちらの会議もコーヒーを飲みながら、参加者が話しやすい雰囲気づくりに心がけた。当事者の参加もあり、当事者の意見をもとに事業内容を検討していくことができた。自分たちがどのような将来像をもって取り組んでいるのか、自分たちに必要な生涯学習とは何か、どのような場面で手伝いなどが必要なのか、自分たちが地域に還元できることは何かを常に考えながら連絡会を進めていくことを心がけた。目的については委員にも共通理解してもらっているため、各専門的立場からの意見を交わすことができた。

自分の意見、考えを人前で話す経験を積むことで自分の思いを大切にしたり、自信がもつことができたりすることができるようになることが、今までの活動を通して実証され、さらに就労につながるケースがあるため、自分たちの夢の実現のために、自分たちの思いをどのように伝えていくかを今後も目標として取り組んでいく。

商品開発に関しては、特別支援学校たかのす校が現在もつながっているふみきり野 Cafe オーナーの方に、ささえ Cafe の商品開発に協力してもらえるように要請した。来年度はたかのす校と協力し、たかのす校の商品を広く販売することと、共同商品開発に取り組むこと、開発した食品の商品化に向けた手続きの把握が必要であることを確認した。

【再委託先②　能代市中央公民館】

社会教育施設が本事業を実施するには、継続的に連携できる協力者がいると効果的であるとともに、地域の福祉施設及び支援学校との継続的な連携を密にすることが必要であることを確認した。

連絡会議では、社会教育施設の利点を活かした今後の講座内容を協議した。

・既存の公民館事業とのタイアップ。
　→公民館祭にて講座で作成した陶芸作品を展示。合わせて本事業の周知。
・県内の本事業を行っている他団体との連携。
　→公民館祭にて、北秋田市障害者生活支援センター「ささえ」と連携しカフェを実施。
・改善点
　連携する協力団体の講座やイベントとの日程調整。年間を通して情報交換を密にする。
　講座の実施曜日を固定せず、内容や対象に合わせて日程を組む。

【再委託先③　潟上天王つくし苑】

今年度も引き続き、障害福祉課と文化スポーツ課、特別支援学校の方々と連絡会議を行った。当事業の要でもある「高校生ボランティア」の参加について以下のような意見があった。

・駅や学校内、近隣の商店等で「ポスター」等を貼るなど、周知できるものを準備してみてはどうか。
・地域の民生委員やボランティアに周知してみてはどうか。

などの意見が出た。学校内には４月にポスターの掲示をお願いして、継続して貼ってもらった。高校生の中には、掲示物を見て参加したケースもあった。しかし、学校側に問合せたところ、「さほど反応はない」という回答もあった。

また、民生委員や地域のボランティアには「障害理解」が必要と思い、市の社会福祉協議会で「障害理解」に関する地域講座を開催し、理解を深めてもらえるように努めた。地域講

座に参加された方からは、「どのように関わればよいか不安だ。」という意見もあった。
　また、障害者の参加率向上について、次のような意見が出された。
・リピーターを増やす取組を考えてみてはどうか。
・魅力ある体験・経験がもてるように内容等を企画する。
・やりたいことができる活動を用意し、選べる場面を設定する。
・自主的に、主体的に活動できる内容の検討。
・支援学校の青年学級と一緒に行う。
などの意見があった。
　来年度は、連絡会議のメンバーを増員し、本事業の活動内容を地域や学校に周知を図り、障害理解につなげていきたいと考える。また、「障害者にどのように関わったらよいか分からない」というボランティアからの質問については、障害に関しての専門的な機関を利用した地域講座や、地域の小・中学校で障害児・者を交えた交流学習等を積み重ねていくことで、「共生社会と相互理解」につながっていくと考える。

【再委託先④　ＮＰＯ法人逢い】
　障害者の生涯学習を進めるに当たっての基本的な視点である「障害の有無にかかわらず、学び続けることができる社会、自らの個性や得意分野を生かして参加できる社会を目指す」ことをねらいとして事業展開をしていくため、初年度は主に障害福祉関係機関に連絡会議の委員を依頼し、今後に向けての基盤づくりを進めていくこととした。
　ライフステージ全体を通じて、障害のある方が個性を生かし、興味関心のもてる学習を主体的、継続的に行うことができるような活動内容にしたいことを委員間で共通理解することができた。
　連絡会議では、事業を通して「何かをする」のではなく、「誰かに会えるうれしさ、楽しさがある」活動が望ましいこと、障がいのある方たちが「自分には何が必要か、不足しているものは何か」について自ら考えたり相談したりできるようにサポートすること、委託事業終了後も一般市民が学ぶ生涯学習に繋げられるようにサポート体制を作っていくことを確認した。
　事業を進めていくに当たり、課題としては、活動場所までの移動手段の確保、講師や支援スタッフの確保の仕方、事業の周知方法等が挙げられた。特に活動場所への移動手段については、地域特性として由利本荘市は、面積が県全体の１割余りと最も広く(東西３２.３㎞、南北６３.７㎞)、公共交通機関の利便性が悪いことが挙げられ、当面は家族等の協力が不可欠な状況がある。
　また、講師や支援スタッフの確保については、社会福祉協議会や高校、民生委員、教育奨励員などにボランティアの依頼の必要があるなどの意見が出された。
　なお、周知活動については、市の広報やゆりほんテレビなどの活用が挙げられた。
　今年度は予定した１２回の活動を無事に終えることができた。一人一人の興味関心を探りながら、本人が「行きたい」「やりたい」という自らの意志をもって参加できる「集う場」の提供ができたことは大きな成果と考えている。課題の１つとして挙げられていた移動手段の確保については、前期は家族による支援が大きかったが、後期は利便性が悪いながらも公共交通機関を利用して参加する方も増えたことは、自立に向けた大きな一歩ととらえている。
　今後も移動手段の確保や講師・支援スタッフの確保の仕方、継続的な講座開催の必要性、

周知活動の工夫などは課題として挙げられるが、障害のある方が個性を生かし、興味関心のもてる学習を主体的、継続的に行うことができるような活動をサポートしていきたいと考えている。

【再委託先⑤　トータルサポートスクールリード学舎】

湯沢連絡会は、支援学校長・高等学校長・福祉団体・市役所（教育・福祉・商工）の８名の委員と県の２名のアドバイザーで構成した。期間内に実施した事業の報告と成果の説明をした後、質疑応答という流れで毎回実施した。各委員から障害者の生涯学習充実のために想いを語っていただいたり、現場にいる者としての具体的なアドバイスをいただいたりすることができた。それらを活動に反映させることで、更なる活動の充実を図ることができた。特に時間をかけて話し合った内容は次のとおりである。

〇第１回湯沢連絡会

「生涯学習センターに出向いて活動をしてはどうか」との質問をいただいた。

生涯学習センターに一人で通うことが困難な方を対象とした事業としていきたい旨を話した。障害者の方に実施した事前ヒアリングの結果でも、「いきなり生涯学習センターに行くのはハードルが高い。」との回答があった。

障害者の方の意見や事業特性に鑑み、「あくまでも最終目標は生涯学習センターでの活動へとつなげることであるが、当モデル事業では、生涯学習センターへ導くまでの、スモールステップの場としてＴＡＢＩＪＩでの生涯学習支援事業をスタートする」と回答し、理解を得た。

〇第２回湯沢連絡会

「通えない人に送迎の対策を検討しているか」との質問をいただいた。

ボランティア等を活用して送迎システムを構築することは考えているが、当モデル事業では、無理のない共生社会システムの構築や保護者との連携を重点的に研究していきたい旨を説明した。今年度は基本的に「自分で交通手段を工面して通える人」を対象としたいと話し、同意を得た。今後、遠隔生涯学習活動も検討。

〇第３回湯沢連絡会

「重度の方への対応は可能か」との質問をいただいた。

障害者本人の「学習したい」という意思があるのならば、対応していきたいと回答した。

「いろいろな場に出向き、活動周知に努めるのはいかがか」とのアドバイスもいただいた。要望があれば喜んで出向いて出張講座を行うと回答した。あらゆるニーズに対応するためには、教材や施設設備がそろっているＴＡＢＩＪＩでの実施が有効であるという旨も申し添えた。

＜どのような者と連携すると効果的な実施体制・連携が得られるかについての分析・検証＞

①湯沢市役所（教育委員会・福祉課・商工課）

湯沢連絡会のメンバーにも入ってもらっており、教育と福祉と経済活動のバックアップをいただいている。一例として、事業利用者の方が「自分の書いた絵を色々な人に見てもらいたい」という夢を語ってくれた時に、すぐに市のホームページにリンクしてくれるよう手配してくれた。今後、商品開発等をしていくことになるが、すでに力を貸していただいている。事業を実施している者として大変心強い連携体制である。

②稲川支援学校

「学生時代からＴＡＢＩＪＩを利用していると、卒業してからもＴＡＢＩＪＩを『学習の

場』『居場所』『相談場所』として使用しやすくなって生徒たちも安心する」という先生方の温かい想いと、私たちの想いがリンクして連携が続いている。
　保護者からも「ＴＡＢＩＪＩのような、子どもを教育してくれる場ができて安心した」という声もいただいた。
③市内障害者福祉施設と商工団体
　障害者の方々の将来の可能性を広げるためにも、福祉施設と商工団体との連携は必要である。現在、緩やかな連携体制ができつつある。

（３）コーディネーター・指導者の配置やボランティアの活用方策等の開発

①県コーディネーター・指導者

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
小川　成樹	秋田県教育庁生涯学習課　社会教育主事	
柏木　睦	秋田県生涯学習センター　主任社会教育主事	

北秋田市障害者生活支援センターささえコーディネーター・指導者

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
加藤　由美子	ふみきり野 Café オーナー	
皆川　雅仁	秋田県生涯学習センター学習事業班　主幹兼班長	
柏木　睦	秋田県生涯学習センター学習事業班　主任社会教育主事	
菅原　睦美	(株)オータム　オータムライスフィールド	
佐藤　朗	坊沢公民館館長	
保坂　美保子	栗森記念図書館	
松田　淳子	北秋田市　教育委員会　生涯学習課　主査	
吉田　みどり	生涯学習奨励員	
大沢　順一郎	〃	

能代市中央公民館のコーディネーター・指導者

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
佐藤　邦彦	能代市中央公民館　係長	

潟上天王つくし苑のコーディネーター・指導者

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
佐藤　千枝子	潟上天王つくし苑　施設長	
高橋　義武	潟上天王つくし苑(ダンス担当)　支援員	
門間　宏樹	潟上天王つくし苑(歌・音響・ゲーム担当)　支援員	
小柳　初美	クッキング担当(調理師)	

ＮＰＯ法人逢いのコーディネーター・指導者

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
佐藤　裕子	ＮＰＯ法人逢い副理事	

トータルサポートスクールリード学舎のコーディネーター・指導者

氏　　名	所　属　・　役　職　等	備考欄
阿部　浩美	トータルサポートスクールリード学舎　代表	ＴＡＢＩＪＩ コーディネーター

②開発の実施経過

	秋田県教育委員会
４月	・県立能代支援学校全校ＰＴＡにて本事業について説明
５月	・秋田県特別支援学校ＰＴＡ連合会総会にて事業説明
６月	・北秋田障がい児・者総合支援会議にて事業説明
７月	・県相談支援関係者ネットワーク会議にて事業説明 ・県立支援学校天王みどり学園全校ＰＴＡにて事業説明 ・北秋地区生涯学習奨励員協議会研修会にて事業説明 ・あきたスマートカレッジ「『障害者スポーツ』を通じて障害者の生涯学習を考えよう」講座開催（３回実施、生涯学習センター）
８月	・秋田大学教育文化学部附属特別支援学校夏のセミナーにてパネリストとして本事業を紹介 ・市町村職員専門研修（兼）公民館等職員専門研修にて「障害者の生涯学習の講座づくり（防災教室）」を開催（３回実施、生涯学習センター）
９月	・北海道・東北ブロック生涯学習・社会教育主管課長会議で事業説明 ・「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査開始(生涯学習センター)
１０月	・月刊「公民館」に本事業の実践事例を掲載
１１月	・心いきいき芸術文化祭(県障害福祉課主催）にて本事業ちらし等を配布
１２月	・共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロックの開催
１月	・季刊「特別支援教育」７６号に本事業を掲載
２月	・国社研社会教育主事講習Ｂにて、全国から参加した受講者に事業紹介 ・秋田県教育研究発表会にて「障害者の生涯学習」に関する調査等の発表 ・「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査速報を県生涯学習・社会教育関係職員会議で配付、説明(生涯学習センター)
３月	・生涯学習センター内にボッチャコート、卓球バレー台を設置

	北秋田市障害者生活支援センターささえ
４月	
５月	タピオカドリンク、レモネードの商品開発
６月	〃
７月	フレンドリーCafé(生涯学習奨励員総会)　ミュージック・ケアおためしキャラバン隊
８月	コーヒー豆の焙煎体験
９月	
１０月	重心カフェ(スマイルカフェ)でのパステルアート
１１月	本日のからくり Café での熟議　撮影　ミュージック・ケア体験セミナー
１２月	生涯学習フェスタ
１月	比内支援学校たかのす校と商品開発などについての話し合い 坊沢地区の皆さんとそば打ち体験

２月	ささえ文部科学大臣表彰祝賀会撮影　日常でのタッピングタッチコーナー開設
３月	

	能代市中央公民館
４月	
５月	
６月	6/4　第１回連携協議会で事業推進の把握
７月	
８月	
９月	
１０月	
１１月	11/21　第２回連携協議会で事業の方向性確認
１２月	
１月	
２月	2/25　第３回連携協議会で事業実施最終確認
３月	

	潟上天王つくし苑
４月	
５月	第 1 回目の講座開始前に、高校生ボランティアの事前説明会「障害をもった方への接し方」を行う。
６月	市社協主催の障害者理解についての「出前講座」を開催
７月	秋田県立支援学校天王みどり学園ＰＴＡで本事業についての説明
８月	
９月	潟上市連絡会議①
１０月	潟上市文化祭への参加
１１月	
１２月	
１月	
２月	
３月	潟上市連絡会議②

	ＮＰＯ法人逢い
４月	
５月	
６月	連絡会議①
７月	
８月	
９月	
１０月	

１１月	連絡会議②
１２月	
１月	
２月	連絡会議③
３月	

	トータルサポートスクールリード学舎
４月	支援者ミーティング
５月	支援者ミーティング
６月	支援者ミーティング　連絡会議①
７月	支援者ミーティング
８月	支援者ミーティング
９月	支援者ミーティング
１０月	支援者ミーティング
１１月	支援者ミーティング　連絡会議②
１２月	支援者ミーティング
１月	支援者ミーティング
２月	支援者ミーティング　連絡会議③
３月	

③具体的な内容

【秋田県教育委員会】

・特別支援学校の保護者に本事業を周知してもらうために、今年度は、２校の特別支援学校へ、再委託先の担当者と訪問し、全校ＰＴＡ等で本事業について説明を行った。まだ本事業について知らなかったり、公民館等の社会教育施設を障害者が利用できないと思い込んでいる保護者もいたりしたため、本事業について更なる周知活動が必要だと感じた。

・秋田県特別支援学校ＰＴＡ連合会総会に参加し、本事業について説明した。総会には、県内の特別支援学校ＰＴＡ会長や特別支援学校長が参加しており、本事業の取組について具体的に情報提供することができた。学校卒業後の学びについて、保護者のニーズの高さを理解できた。

・県の障がい者総合支援協議会では、本事業の連携協議会委員長の藤井教授なども参加している。そのため、藤井教授と協議会事務局の県障害福祉課に依頼し、「障害者の生涯学習モデル支援事業」の取組について説明をする時間を設定してもらった。

・秋田県生涯学習センターでは、９月上旬に県内の特別支援学校高等部生徒の保護者、特別支援学校卒業後３年以内の卒業生の保護者に「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査を行った。集計結果をコンファレンス等で発表し、参加者に秋田県の実態について考えてもらう機会となった。また、市町村職員専門研修（兼）公民館等職員専門研修を３日間実施した。研修受講者が障害者の防災講座を開催することを目標にして、講座の準備や内容について協議等を重ねた。生涯学習センターの社会教育主事からアドバイスをもらいながら、障害者を対象とした講座を滞りなく運営することができた。生涯学習センターでは、今後これらのノウハウを蓄積していき、県内市町村の要望に応じて出向き、助言ができる

ような体制づくりについて検討していく。

・コーディネーターについては、社会教育、障害福祉、特別支援教育を円滑に結ぶパイプ役としての素質が求められる。来年度の文部科学省有識者会議等での方針を踏まえながら、来年度以降に活動内容等を検討をしていきたい。

【再委託先①　北秋田市障害者生活支援センターささえ】

〇商品開発

商品開発に関しては、ふみきり野 Cafe オーナー加藤さんに随時相談している。保健所申請に関することもアドバイスをいただいている。コーヒー以外の目玉商品スイーツを生菓子の他に長持ちする商品を１つ確保しておくだけで幅が広がっていくことを教わった。来年度に向けて、年間を通した営業販売手続き方法について学びながら進めていくことと、たかのす校の人気商品の引き継ぎや共同開発に向けて、今後も指導をいただく予定である。また、コーヒー豆焙煎の指導を受けたが、この作業は工程がたくさんあり、生産活動、作業活動に適していることが理解できた。豆の選別、焙煎、袋詰めなど、今後への取組の課題となった。

〇ボランティア育成

ボランティア育成研修会と称した本日のからくり Cafe では、秋田県生涯学習センター職員による熟議を展開しながら、自分たちが目指す地域像はどのようなものなのかを考える機会となった。町歩きイベントを行う前に、障害をかかえながら会社を経営している菅原さんの話を伺ったことで、参加者の視点が一つにまとまった。昨年度に引き続き、この講座は、地域にある福祉事業所の方に運営スタッフとして関わっていただくことで、障害のある方の生活について考えるよい機会となるようなねらいがある。地域の方が障害理解を深めるほかにも、福祉に携わる人材育成とスキルアップへとつなげていくことを目指している。協議会メンバーがこの考えを理解し、各施設にスタッフ依頼する際に伝えてくださることも大きな成果となっている。しかし、まだ認知度は低いため、今後も継続した取組を行いながら、障害のある方に学びの場を提供していく必要がある。

〇地域とのつながり

坊沢地区の皆さんと昨年度のＧちゃんサミットで知り合い、今年度は地域交流と技術習得を目的として、そば打ち体験講座を開催した。坊沢地区の皆さんが６名参加してくださり、少人数のグループに分かれて全工程を全員で体験できたことは参加者の満足度につながり、また、完成したという成功体験をすることで、学習意欲の向上につながった。地域の方と一緒に活動できたことはもちろん、坊沢地区の皆さんが障害者の一人一人の得意なところを見つけ誉めてくださったことで、参加者の満足度が更に向上した。

〇生涯学習奨励員

今年度から、生涯学習奨励員が、障害者の生涯学習推進事業に関わる方針が打ち出されたことを受けて、何度か話し合いを重ね、合同のイベントを開催するなど交流を深めることができた。一緒に活動していく中で障害理解が深まり、ボランティアとして関わる機会へとつながった。また、イベントなどで生涯学習奨励員へ撮影をお願いすることが多かった。何度も顔を合わせることで、お互い心を許し受け入れることができるようになったことは、大きな成果として挙げられる。

【再委託先②　能代市中央公民館】

能代市中央公民館職員で社会教育主事有資格者であるコーディネーターが、その専門性を活かし、講座内容の決定、講師選定を行い、事業を展開した。

社会教育施設勤務１５年の経験により、豊富な講座企画能力を活かし、地域住民への周知、障害者（関係団体や施設）への呼び掛けなど工夫をしながら、講座を運営した。

【再委託先③　潟上天王つくし苑】

(ボランティアについて)

今年度で２年目となる高校生ボランティアだが、活動内容が分からなかったり、障害者に対する関わり方に不安があったりすることなどから、参加率が低くなった。しかし、地域の高校生にとっては、支援学校からの障害理解について講座に参加するなど、少しずつではあるが障害のある方との関わり方を知る機会が多くなっている様子であった。その中で、学生から「講座を聞いて実践する場所や機会が少ない」「どこでボランティアを必要としているのかを知りたい」との声を聞くことができたため、すぐにチラシを配付している。その後、「チラシを見た方が参加して楽しかったと聞いたので、来てみた」という高校生が増えた。

また、社会福祉協議会の声掛けにより、地域のボランティアや民生委員からの見学があった。市社協主催による「障害理解」の講座にも沢山の人が傾聴していた。後日、当施設に問い合せがあり、「障害者のボランティアは難しい。もう少し見識が必要なので時間が欲しい」との返答であった。

（コーディネーター・指導者について）

今年度は２種類の活動を計画した。特にクッキングに関しては、衛生面の大切さを意識しながら少しでも調理ができるようになってもらいたいという目標を掲げて実施した。調理師の方３名を講師としてお願いし、施設職員が障害者のサポート役として活動を見守った。米のとぎ方から段階を経て、郷土料理のだまこ鍋で「おもてなし」をするといった内容だった。衛生面では、除菌に関してのミニ講座を行い、参加者で学び合った。

ダンス＆運動では、支援員が考えた創作ダンスを主に行った。運動についても、皆で楽しめる内容を提供したが、運動がパターン化してしまい、参加者の意欲を向上する必要があった。

来季は、継続の部分とパターン化を改善し、若い世代の参加者が楽しめる内容を提供したい。また、ボランティアも障害者との関わり方に身構えず、もっと一緒に楽しめるような工夫を考え、講座を運営していきたい。

【再委託先④　ＮＰＯ法人逢い】

指導者の配置、適性については、今年度の事業において、特に食育講座、ダンス等運動で専門の講師を配置した。結果として、障がいのある方たちに対して、理解できるような表現や言葉掛け、タイミング等に特別な対応はなく、一人の受講者として接してもらい、丁寧にコミュニケーションをとりながら指導をしてもらった。活動によっては、栄養士、インストラクター、推進員など専門性の高い指導者に参加してもらうことで、障がいのある方の「学ぶ」という姿勢が定着し、学習意欲の向上が図られ、より積極的な活動への参加につながると考える。しかし、専門性の高い指導員の継続的な指導には、予算的な問題や人材の確保が課題であり、今後、検討していかなければならないと考える。

【再委託先⑤　トータルサポートスクールリード学舎】

＜コーディネーター・指導者の配置・適性等＞
　湯沢市社会教育委員でもあるＴＡＢＩＪＩ事業コーディネーターと教員免許を保有する指導者が毎回事業を計画した。教育者として、参加者一人一人の特性にあった個別プログラムを展開した。当事業は、指導者に教育的視点が特に求められるものであるため、指導者採用の際は面接だけではなく、実際の現場での動きも参考にした。
　当事業では、コーディネーターが経営する事業所の一階を利活用している。主な理由は、
①立地条件がいいこと（国道沿い・バス停留所・高校の隣など）
②あらゆる教材が整っていること（ニーズに対応できる）
③市役所や生涯学習センターに近いということ（そこで学習する自分の姿をイメージしやすくなる）
④近くに福祉施設があること（新たな掘り起こし）
⑤教育人材が施設内に常駐していること（強力な指導体制）
⑥指導者が少人数でも参加者の様子全体を把握できる施設設計であること（安全面の充実）
の６点である。
　施設設備にかかる諸経費はすべて持ち出しであるが、地域の力で共生社会を創造していくモデル事業になればとの一心で無料提供し、それを理解してくれている指導者と共に日々生涯学習プログラム構築に励んだ。
　以上のことより、当事業のコーディネーターや指導者は、事業利用者一人一人のことはもちろん、地域全体のことも考えて行動することができる「教育者」であることが求められると感じる。
＜ボランティアの活用方策＞
　ＴＡＢＩＪＩ事業においては、「教育者」であることが、ボランティアであっても条件の一つであり、こちらでは即戦力を求めている。したがって、面接後に一緒に事業を体験してもらうなど、実際の「動き」をみてボランティアとして頑張ってもらうかどうかの判断を行っている。その噂を聞きつけ、自ら「ボランティアをやらせてほしい」と願い出てくれる高校生が出てきたことは、大きな成果であると考える。
（一年間のボランティア→大学生４、高校生８、中学生１、一般２５、延べ３８名が参加）

（４）成果等の普及
①実施経過
（具体的な内容は６．（４）②に記載すること。）

４月	・県立能代支援学校全校ＰＴＡにて本事業について説明
５月	・秋田県特別支援学校ＰＴＡ連合会総会にて事業説明
６月	・北秋田障がい児・者総合支援会議にて事業説明
７月	・県相談支援関係者ネットワーク会議にて事業説明 ・県立支援学校天王みどり学園全校ＰＴＡにて事業説明 ・北秋地区生涯学習奨励員協議会研修会にて事業説明 ・あきたスマートカレッジ「『障害者スポーツ』を通じて障害者の生涯学習を考えよう」講座開催（３回実施、生涯学習センター）
８月	・秋田大学教育文化学部附属特別支援学校夏のセミナーにてパネリストとして本

	事業を紹介 ・市町村職員専門研修（兼）公民館等職員専門研修にて「障害者の生涯学習の講座づくり（防災教室)」を開催（３回実施、生涯学習センター）
９月	・北海道・東北ブロック生涯学習・社会教育主管課長会議で事業説明 ・「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査開始(生涯学習センター）
１０月	・月刊「公民館」に本事業の実践事例を掲載（能代市中央公民館）
１１月	・心いきいき芸術文化祭(県障害福祉課主催）にて本事業ちらし等を配布
１２月	・共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロックの開催
１月	・季刊「特別支援教育」７６号に本事業を掲載
２月	・国社研社会教育主事講習Ｂにて、全国から参加した受講者に事業紹介 ・秋田県教育研究発表会にて「障害者の生涯学習」に関する調査等の発表 ・「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査速報を県生涯学習・社会教育関係職員会議で配付、説明(生涯学習センター）
３月	・生涯学習センター内にボッチャコート、卓球バレーを設置

	北秋田市障害者生活支援センターささえ
４月	
５月	
６月	
７月	
８月	
９月	縄文まつりに SasaeCafé 出店
１０月	
１１月	本日のからくり Café に SasaeCafé 出店
１２月	秋田県コンファレンス参加（SasaeCafé 出店）　市役所部長会議でのコーヒー提供
１月	
２月	文部科学大臣表彰受賞祝賀会の実施
３月	

	能代市中央公民館
４月	
５月	
６月	
７月	
８月	
９月	
１０月	10／4～7　公民館祭作品展示 ※10／5 は北秋田市障害者生活支援センターささえによるカフェの提供
１１月	
１２月	公開講座ちらし配付

１月	1/13　公開講座開催　1／26 のしろまち灯りイベントへの参加
２月	
３月	

	潟上天王つくし苑
４月	３校の高等学校へ今年度のボランティア要請と事業内容を説明に出向く。高校生本事業に係るＳＮＳを開設。活動の写真や内容を掲載。(～Ｒ２年２月まで)
５月	ボランティアや障害者の参加募集のポスターを作成し、市役所等で掲示してもらう。 第 1 回目の講座開始前に、高校生ボランティアの事前説明会「障害をもった方への接し方」を行う。
６月	市社協主催の障害者理解についての「出前講座」を開催
７月	秋田県立支援学校天王みどり学園ＰＴＡで本事業についての説明
８月	
９月	潟上市連絡会議①
１０月	潟上市文化祭への参加(ダンスパフォーマンス)
１１月	
１２月	
１月	
２月	
３月	潟上市連絡会議②

	ＮＰＯ法人逢い
４月	
５月	
６月	
７月	
８月	
９月	
１０月	
１１月	
１２月	
１月	アート交流会（２日間）※地域の高校生とアート創作交流
２月	
３月	

	トータルサポートスクールリード学舎
４月	
５月	
６月	事業周知チラシ配布

７月	事業周知チラシ配布・
８月	湯沢市広報掲載・事業ホームページ作成①
９月	稲川支援学校「青年学級 in TABIJI①」　秋田魁新報掲載（２回）
１０月	地域共生社会推進全国サミット in 湯沢　参加
１１月	TABIJI パンフレット配布①
１２月	稲川支援学校「青年学級 in TABIJI②」・やまばと園「ホップ in TABIJI」
１月	TABIJI パンフレット配布②
２月	秋田魁新報掲載・kokocolor２０２０　２月号掲載・北鹿新聞掲載 湯沢市子どもの未来応援会議・事業ホームページ作成②
３月	

②具体的な内容

【秋田県教育委員会】

・文部科学省特別支援教育課が編集している季刊「特別支援教育」７６号の連載講座に、本県の取組について紹介した。全国の特別支援教育関係職員に、本県の「障害者の生涯学習」の取組について周知することができた。

・今年度は北秋田(北秋田市と上小阿仁村）と大館市の障害者自立支援協議会に参加させてもらい、「障害者の生涯学習」の必要性についてリーフレットを持参し、説明を行った。まだ事業について把握していない委員が多かったが、来年度は障害福祉担当課と連携して、県南地区の自立支援協議会でも説明を行っていきたい。

【北秋田市障害者生活支援センターささえ】

〇コンファレンス東北ブロックへの参加

SasaeCafe を出店し、自分たちの取り組んできた活動を多くの方に知ってもらうことや、自分たちの実力を試すよい機会となった。

事前準備から自分たちで行い、シミュレーションして本番に挑んだ。本番は、予想以上の来客があったことで、同時刻に集中した際の対応ができなかったことが課題として挙げられた。人的課題と物的課題があり、コーヒーメーカーやポットが足りないことが明らかになった。また、客が集中すると気持ちが焦ってしまい、冷静に行動できないことがあった。今後も経験を積んで、対応できる力を身に付ける必要があり、来年度の課題となった。

〇文部科学大臣表彰祝賀会

準備から当日の販売まで自分たちで行った。「水が足りない」「コーヒーを作りすぎてしまった」「お客さんが並んでいてコーヒーを注ぐブースが空いているのに、気づかず指示がないと動けない」などの課題が挙げられた。一方で、成果としては、交替制で店頭に立ったり、食事を摂ったりすることができ、それを自分たちで考えて声を掛け合ったことである。

今後も、課題解決に向けた取組として、定期的に Cafe 活動を繰り返し行っていきたい。

〇市役所部長会議でのコーヒー提供

福祉課の依頼により、市役所部長会議の場でささえ Cafe のコーヒー提供と PR 活動をさせてもらった。終了後は福祉課の皆さんにも、コーヒーを提供し、感謝の言葉をたくさんもらい、活動の自信につながった。

【能代市中央公民館】

腰塚勇人氏による公開講演会「命の授業～ドリー夢メーカーと今を生きる～」では、自身のスキー事故により重い障害を負った経験から、命の大切さを学び、人は人に生かされているという気づきを得たという内容の講演だった。

障害者支援や家族支援の考え方、共生社会の在り方を独自の目線で講演し、「一人の命は年齢、性別、人種、貧富、障害の有無等、何者と比べても価値は変わらない。相手を大切するには自分を大切にすることが必要」といった内容で、参加者が生き方を見つめ直す講演であった。当日は、市長や教育長も講演会に参加し、「障害者の生涯学習」についてたくさんの市民に対して周知を図ることができた。

【潟上天王つくし苑】

学生ボランティア、地域ボランティア、民生員・障がい児・者の方々からの意見の中で同じ様な回答が寄せられた。その中で、「どのように関わればよいのか」「コミュニケーションの取り方が分からない」「何を話せばよい」などが多かった。講演会やフォーラムの開催も行いながら、互いが理解し合えるような内容の企画を考えていきたい。

【ＮＰＯ法人逢い】

これまでNPO法人逢いは、障がいのある方たちのアート活動やダンス活動等を展開する中で、障害福祉関係者のみならず、広く一般の方々にも観てもらう機会を幾度も設けてきた経緯がある。地域の西目高校とのアート交流活動では、障害のある方の感性や表現方法に生徒が驚きや新たな気づきを見出し、互いの交流場面を楽しみにするような関係性ができたことも、本事業を地域で進めていく素地の一つとして、今後は、各部署、各々の団体等ともつながり、障がいのある方たちのニーズに応えるべく場面づくりを考えていきたい。

【トータルサポートスクールリード学舎】

①9/7(土)　稲川支援学校とのコラボ企画「青年学級 in TABIJI①」

＜取組内容＞前半 1 時間→iPad アプリレッスン（iPad 操作の基本・塗り絵アプリ・画像処理アプリ）

後半 1 時間→フォトフレーム制作（iPad で画像処理後にプリントアウトした写真を利用）

＜取組結果＞初めての施設や初対面の人たちに対する抵抗感を少なくする目的もあり、支援学校の先生たちも参加してくれた。おかげで、参加者もリラックスして笑顔で参加してくれた。みんなで同じアプリを使用してはいるが、数えきれないほどあるデザインや素材の中から、それぞれが好みのデザインや素材を選択できる体制を整えたため、時間ぎりぎりまで楽しそうに取り組む姿勢が見られた。作業を通じて、嗜好や思考、性格や特性等が把握できた。

また、保護者にも参加いただいたことにより、今後の活動のヒントを得ることができた。（「保護者用レッスンのメニュー」づくりの必要性・保護者から見た「子どもに習得させたい技能」の確認）

②10/10（木）～11（金）　地域共生社会推進全国サミット in 湯沢　参加

＜取組内容＞１０月１０日（木）TABIJI 事業を iPad にて展示する準備・商品販売準備

１１日（金）TABIJI 事業の活動紹介・商品販売

＜取組結果＞市内に設置したTABIJI農園で育てた野菜を活用した商品開発のお披露目となった。商品として販売するものという意識付けを行うことで、販売準備を滞りなく進めることができた。当日の販売と事業説明は、指導者のみで行ったが、「新聞見たよ」「よい活動してるね」などの声をたくさんいただいた。県内外からのお客様に、TABIJIの見学依頼やTABIJIのプランを教えてほしいなどの要望をいただいた。今後、対応していきたい。

③12/7（土）稲川支援学校とのコラボ企画「青年学級 in TABIJI②」

＜取組内容＞前半１時間→自分自身の「今年の音楽」「今年の漢字」を答えてもらう。
iPadで美文字練習後、水の書道、墨汁の書道へとレベルアップして、最後に写真撮影を行った。
後半１時間→アイシングクッキーづくり、包装作業

＜取組結果＞２回目の青年学級であり、来た瞬間から参加者自ら話し掛けてきてくれるようになった。文字を書く時の正しく美しい姿勢を学んでもらうことで、日頃の生活から姿勢に気を付けるようにしたいという声も聞こえた。その後、写真撮影をしたが、背筋を伸ばして素敵な姿勢でカメラの前に立つ姿に感動した。青年学級とのコラボはこれで終了するが、継続的に通ってもらえるよう今後も支援学校の協力を仰いでいきたい。

④12/20（木）やまばと園（知的障害者施設）とのコラボ企画「ホップ in TABIJI」

＜取組内容＞前半１時間→アイシングクッキーにチャレンジ！
後半１時間→簡単クリスマスツリー制作

＜取組結果＞「初めの一歩が大切だから」「利用者の方々に楽しんでもらいたいから」と、やまばと園の職員の方々と何度も打合せを行った。
「第１土曜と第３土曜はTABIJIに来ていいんですからね」「やりたいことやらせてもらえるから、先生たちに話してみてくださいね」と何度も参加者の皆さんに周知徹底をしてくれて、参加を促してくれた。
今後もこういった横のつながりを一つ一つ大切にして、利用者の方々の笑顔を引き出していきたい。
TABIJIで作成した作品を、「孫にあげたい」と笑顔で話してくれる方がいた。後日、孫にあげたら喜んでくれたと私たちに報告してくれた。

⑤メディア掲載

＜取組内容＞新聞、フリーペーパー、広報への掲載。

＜取組結果＞取材を受けた際、地域柄、言葉の選択には細心の注意を払ってほしいと強く要望した。掲載後、見学者や問合せ、町内での声掛けが増えるなど、記事により事業の周知が図ることができたと確信している。まだ周知徹底までには至っていないと思うので、全ての人に知っていただけるよう、今後も取材依頼には積極的かつ丁寧に対応していきたい。

⑥TABIJIパンフレット・ホームページ作成

＜取組内容＞TABIJIの活動内でデザインを考えてもらい、みんなで案をまとめ、アートディレクターのブラッシュアップ後に形になった。

＜取組結果＞自分たちのデザインが、作品としてパンフレットやホームページといった実際の形になっていく姿を目にして、とても喜んでいた。「次はこんなことをやってみたい」などと要望するようになったり、家で描いたという絵を持っ

	てきて意見を求めるようになったりと、自己肯定感の向上が著しい。今後も、自分たちの活動が見える化できるような仕掛けづくりをして、参加者の自己肯定感を高めていきたい。

（５）ブロック別コンファレンスの実施

①実施経過

４月	・開催時期、場所の決定
５月	・コンファレンス登壇者等に依頼
６月	・第１回企画委員会(文部科学省にて)　・県連携協議会で概要説明
７月	
８月	・開催要項、チラシを関係機関に配付。
９月	・第２回企画委員会(文部科学省にて)
１０月	・コンファレンス登壇者との打合せ等(～１１月末)
１１月	・県連携協議会で開催要項について説明
１２月	・「共に学び、生きる共生社会コンファレンス（東北ブロック)」２日間開催
１月	・コンファレンス実施報告書作成
２月	・実施報告書印刷(１００部)　・県連携協議会で事後報告
３月	・第３回企画委員会(文部科学省にて)　・関係機関に実施報告書配付

②具体的な内容

＜取組内容＞
・基調講演（全国特別支援教育推進連盟　理事長　宮﨑英憲氏）
・公演（スペシャルサポート大使　ヴァイオリニスト　川畠成道氏）
・実践発表（シャローム大学校　学長　引地達也氏）
・スペシャル鼎談（全国特別支援教育推進連盟　理事長　宮﨑英憲氏）
（シャローム大学校　学長　引地達也氏）
（秋田大学大学院教育学研究科　教授　藤井慶博氏）
・分科会①ＮＰＯ法人が切り拓く生涯学習の支援～保護者の視点を交えて～
②地域に根ざした公民館等の実践～東北からの発信～
③特別支援学校等における先進事例研究～課題への挑戦～
・委託先（社会福祉法人障害者支援施設等）による喫茶販売（２日間）
・秋田県委託先、東北各県の取組についてのポスター紹介（２日間常設）
＜対　象＞
教育委員会の生涯学習・社会教育担当職員、特別支援教育担当職員、生涯学習センター職員、特別支援学校教職員、障害福祉担当課職員、障害福祉事業所職員、委託先団体職員等
＜成果○と課題●＞～コンファレンス実施終了後のアンケート結果等から～
○アンケート結果を見ると、多くの参加者は「障害者の生涯学習」の必要性があると考えている。
○コンファレンスについては、来年度も実施を望む参加者が多かった。

○模擬講座での特別支援学校生徒の様子を見て、普段、障害児・者と接したことがない行政職員や社会教育関係職員の障害者観が変容している。
○２日間実施したため、参加者同士の交流が深まった。情報交換会には、障害のある方も参加した。障害の有無に関係なく意味のある交流ができたととらえている。
●秋田県で東北ブロックを実施したが、東北各県からの参加者が少なかった。交通の利便性を考えると集まりにくいことも考えられる。また、旅費の問題もあるようだ。各県持ち回りで実施することで、東北での「障害者の生涯学習」の推進に向けて機運が高まると考える。
●１２月という時期に開催したが、各地域の特別支援学校公開授業研究会等と時期が重なり、特別支援学校関係職員の参加が予想より少なかった。今後も、本事業について働き掛けていく必要がある。

（Ａ）参加者の属性について

	合計（人）
属性別参加者数	１５０
（内訳）	
行政関係者（教育委員会）	５５
行政関係者（首長部局）	７
学校教育関係者（大学等関係者を除く）	６
大学等関係者	１
公民館等社会教育施設関係者	８
社会福祉法人関係者	３５
ＮＰＯ法人関係者	５
企業関係者（商工会等含む）	１
保護者団体関係者（親の会・手をつなぐ育成会等含む）	１０
その他一般参加者	１０
運営事務局関係者	１２

（Ｂ）メディアインパクト（報道等での周知状況）

	件数
新聞	１
ラジオ	０
テレビ	０

※該当がある場合、別途参考となる資料を添付のこと。

７．本実践研究事業の実施により得られた成果・効果
（自立や社会参加・就労等に関する具体的なエビデンスに基づく成果・効果）

（事業の実施により直接的に得た成果／アウトプット）

【秋田県教育委員会】

・今年度、初めて「共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック」を秋田県で開催することができた。参加者は１５０名であり、秋田県内のみならず県外からも参加を得ることができた。県外からの参加者からは、「まだ障害者の生涯学習について、具体的な取組が行政として実施されていない。今回のコンファレンスの参加をとおして、障害者の学びの必要性について考えるよい機会となった」との感想をもった行政関係者がいた旨、把握している。今回のコンファレンスが、東北地区での機運が高まる機会になったと考える。

・北海道東北ブロック社会教育主管課長会議が秋田で開催され、本県の取組について説明した。本会議で「障害者の生涯学習」について話題になったことは、開催以来初めてとのことだったようだ。参加した各道県には、現在の取組状況を報告してもらう機会を設定したため、各道県の障害者の生涯学習に対する重点の置き方の差が浮き彫りになった形となったが、本県の取組を紹介し協議することで、参加者同士で「障害者の生涯学習」の必要性について考える機会となった。本事業の周知により、東北地区における障害者の社会参加が前進していく契機になればよいと考えている。

【北秋田市障害者生活支援センターささえ】

昨年度から始まった SasaeCafe の２年目は、年１２回の出張カフェ活動を行った。うち７回は新規のイベント参加となった。特に特徴的だった Cafe 活動は次のとおりである。

①秋田北鷹高校　学校祭(北鷹祭)への出店

ＪＲＣ委員会と合同で活動することで、障害理解と事業周知が図られた。また、高校生が好きな飲み物を調査し、商品開発に参加することで、多くの学生がブースを訪れ、購入してくれた。自分たちで考え、研究した商品を多くの客が買い求め、２００杯準備したドリンクが完売したという経験は、当事者達に販売する喜びと自信を与えた。

②１００キロチャレンジマラソンボランティアでの Cafe 出店

アイシング担当というブースでボランティア活動してきたが、今回は SasaeCafe ブースを新たに設けていただいた。その場で待っているだけでは多くの方に知ってもらえないため、出張販売をしたらどうかと自分たちで考え、３班に分かれてコーヒーを配った。結果的に多くの人から声を掛けられ、担当者の反省会では、ぜひ来年も参加してほしいと直接言われた。もっと美味しいコーヒーを淹れられるようになりたいとの思いから、新たな自分たちの活動場所を見つけることができた。

③パイロット事業委託を受けている団体との交流

生産活動、Cafe 活動をしている２団体を視察研修させていただき、利用者同士の交流を行うことができた。本格的な販売商品を製作している姿を見て、身の引き締まる思いと自分たちにもできるだろうかという不安な気持ちを感じたようだ。不安な気持ちを自信につなげるための挑戦が来年度に続いていくことを改めて感じた。利用者の中に、他団体の企画するイベントに参加してきた方がいて、県域を越えたつながりができたことに喜びを感じ、こちらも来年度の取組として学習プログラム中で展開していこうと話し合った。

【能代市中央公民館】

本事業２年目を終え、各講座を終える度に地域に住む障害者との交流が深まり、学習意欲や学習ニーズについて直接聞き取ることができた。また保護者からも生の声を聞くことができた。

能代支援学校と密に連携したことで、学校行事とタイアップして行う講座を開催し、卒業生と在校生が交流する場となった。

社会教育施設という特性を活かし、公民館祭では講座で作った作品を展示したり、本事業を紹介するブースを設けたりするなど、地域住民にこの事業について知る機会を設けた。また県内で本事業を行っている障害者生活支援団体と連携し、ロビーにおいてカフェを提供するなど、地域住民との交流も深まった。

公民館は様々な人が訪れる場所であり、自立や社会参加に向けて果たす役割は大きいと感じている。次年度以降の取組について、参加者や協力者の声をできる限り反映ささえていきたいと考える。

【潟上天王つくし苑】

参加者のほとんどが、毎回楽しみにして来てくれている。活動の内容も自己決定し、ボランティアとの関係性はあと一歩というところだが、「どうしたいか？」「どうなりたいか？」を考え、行動しているのを感じる。１年を通しての活動内容になったが、目標を掲げて達成したできたことは、支援してきた職員にとってもやりがいをもつことができた。保護者も安心して参加者を送迎してくれた。また、保護者も一緒に参加するようになった。

職員が自分の子供を連れて参加してくれるので、小さい子が好きな参加者にとっては、よい関わりがもてる機会となっている。同時に、子供にとっては、幼少期から障害者と共に活動したという経験は、将来、我々が目指す「共生社会」にもつながっていくと考えている。

【ＮＰＯ法人逢い】

・逢いでは、前期後期（６月～１月迄）合わせて１２回の活動を実施し２２０名の参加があった。ねらいとしては、日中活動の延長線の活動ではなく、あくまでも自分自身の余暇の充実を図るべく学習の場として、今期は「行きたい」「やりたい」という自立した意思を持って参加できる「集う場」の提供ができた。前期は家族に送迎等負担をかけていた方たちが、後期には「電車で来た」「駅から歩いて来た。健康のために自分で歩いて帰るんだ」という言葉が聞かれるようになったこと、また一人一人の興味関心を探りながら、支援スタッフの細やかな配慮等の支援によって、「楽しかった」「また来る」「この次いつ？」という言葉が開催毎に多くなり、自主的な参加に繋がったことは大きな成果だった。

【トータルサポートスクールリード学舎】

①「新聞を見て」との電話問合せ（８件　市内３件・市外５件）

②「新聞を見て」との直接来訪（３件　市内３件）

※①②とも平日夕方～夜。全て家族の方からの問合せであった。

③「別の日（講座開催日以外）に見学させてもらいたい」という要望（８件）

④「別の日でも体験を実施してもらいたい」という要望（５件）

※③には全て対応。④に対しては次年度対応を検討。

⑤「仕事をする意義が分かった」（１件）

⑥「就労Ａを目指して頑張ると話してくれるようになった」（１件・保護者の方より）

（事業の実施により終了後（中長期的）に得たい成果／アウトカム目標）

【秋田県教育委員会】

・秋田県生涯学習センターで実施した「障害者の生涯学習に関するニーズ調査」により、障害者が生涯学習に取り組みにくい阻害要因などが明らかになっている。例えば、山間部に居住している障害者で活動場所まで移動が困難な例や、冬期間の公共交通機関利用の困難な例など、秋田県ならではの課題がある。また、引きこもりの状態にある障害者数も多く、障害者の社会参加や自立の障壁となっている。来年度は、遠隔講座（または訪問講座）なども検討しながら、誰でもどこでも学べる方策について、実践をとおして改善策を考えていきたい。

・大学等での障害者の学びについて、「大学での学びに係る検討会」を開催し、障害者の学びの場の拡充を目指す。

・秋田県障害福祉課の施策である「秋田県障害者サポーター養成講座」の受講者の活動の場として、本事業で支援サポーターの具体的実践を行い、障害者の学びを支援する人材の育成を図る。

・３か年計画により、秋田県生涯学習支援システム「まなびサポート秋田（インターネットによる生涯学習情報提供システム）」のユニバーサルデザイン化を図り、障害者が検索しやすいネット環境を整備し、生涯学習への参加の機会を推進する。

・再委託先の５市以外の２０市町村の教育委員会を直接訪問して事業説明を行い、「障害者の生涯学習」について理解啓発を図る。

【北秋田市障害者生活支援センターささえ】

２年目は１年目で築き上げた Cafe 活動のスキルを実践する場が多く、その度に様々な学びがあった。準備や在庫管理も自分たちでできるようになってきた。

２月の最終 Cafe 活動では、準備から販売、Cafe 活動まで全て自分たちで行った。最後までやりきったという達成感があり、大きな自信となった。課題としては、水の量が間違っていたこと、客が並んでいても自分の役割ではないことには取り組まないこと、残量を考えずどんどん作ってしまったので残量がたくさん出てしまったことなどが挙げられる。これらは、自分たちで考え、行った結果であり、この課題から自分たちが身に付けるべきスキルは何なのかを話し合い、来年度の目標とすることができている。

Cafe 活動の最終到達地点は、重度の障がいのある方たちが、働くという意識をもって過ごせる場である。全ての人がそれぞれの強みを生かし、自分も役に立っていると言う意識をもって活動することができるように取り組んでいく。

Cafe 活動以外の余暇支援に関しては、公民館などで企画されている一般向けの講座に積極的に出かけていき、当たり前に自分の学びたいこと、興味のあることに参加できる地域づくりと、当事者の経験値や意識の向上を図っていくことが、中長期的に得たい成果として挙げ、来年度以降に取り組んでいきたいと考える。※今年度は既存の５講座に延べ２６名の方が参加した。

【能代市中央公民館】

これまで連携を深めてきた能代支援学校をはじめ、就業・生活支援センターなどとも連携し、学校と社会を結ぶ一拠点として運営していきたい。そして、「だれでも、いつでも、どこでも」学べる生涯学習の理念に基づき、公民館にできる役割を果たしていきたい。

ハード面ではエレベータのない施設のため、活動できるエリアが限られる現実がある。これを解消できるよう、引き続き行政に施設のバリアフリー化等の働き掛けを続けていきたい。

【潟上天王つくし苑】

参加者が講座開催場所へ自力で通えないことが大きな課題と考える。知的障害の参加者が自力で交通機関を利用し、会場まで歩いて参加することは、ハードルが高く困難である。参加者の中に、毎回「親に用事があり、行きたいけど今回は不参加です」という声が聞かれた。地域の実情を考えると、路線バスの本数も少ない。電車も１時間に１本程度であるため、学生ボランティアの送迎も職員が行うことになる。今後は、福祉サービスを使って問題を改善できるか考えていきたい。

参加者の増員と当事業の周知について今後考えていきたい。支援学校へ出向き、在学中から参加してもらえる様な活動内容の充実を目指したい。

【ＮＰＯ法人逢い】

・委託事業終了後の継続的な事業とし、地域の自立支援協議会での理解、協力を得ながら、一般市民が学ぶ生涯学習や団体等に参加できるサポート体制を整えたい。

・由利本荘市内には、６～７か所の障害福祉サービス事業所があり、そこの利用者が逢いの講座に参加している。障害者一人一人の学びが充実し、切れ目のない支援ができるように、各事業所から支援員が逢いの講座に支援スタッフとして参加してもらうように、各事業所に協力を仰ぐ予定である。

【トータルサポートスクールリード学舎】

①１０代の利用率・継続率が高い。今後、「居場所」「何かあったら TABIJI へ」という思いをもってもらえる可能性が大であるため、期待に応えられるように、さらに丁寧に対応していき、新規２０名、合計で８０名超の参加を目指したい。

②保護者と一緒の利用が多い。保護者から参加者の特性を教えてもらい、保護者の想いも聞くことができた。保護者に安心してもらえるよう今後も丁寧に対応していく。今後、保護者との利用は促進したいと考えており、約３割の参加を目指したい。

③２０代～４０代への訴求がもっと必要である。初めの一歩を踏みだせるような仕掛けづくりの必要性を感じる。福祉施設や支援団体と連携したり、ＳＮＳ発信などを行い、約２割増の 36 名の参加を目指したい。

＜令和元年度ＴＡＢＩＪＩ※トータルサポートスクールリード学舎延べ参加人数と内訳＞

年齢層	参加	新規	継続
10 代	66	16	50
20 代	12	8	4
30 代	13	8	5
40 代	8	4	4
50 代	22	7	15
60 代	5	4	1
70 代	11	2	9
80 代	4	2	2
延べ	141	51	90